

2-2 江刺における地殻変動連続観測

Continuous Observations of Crustal Movements at the Esashi Earth Tides Station

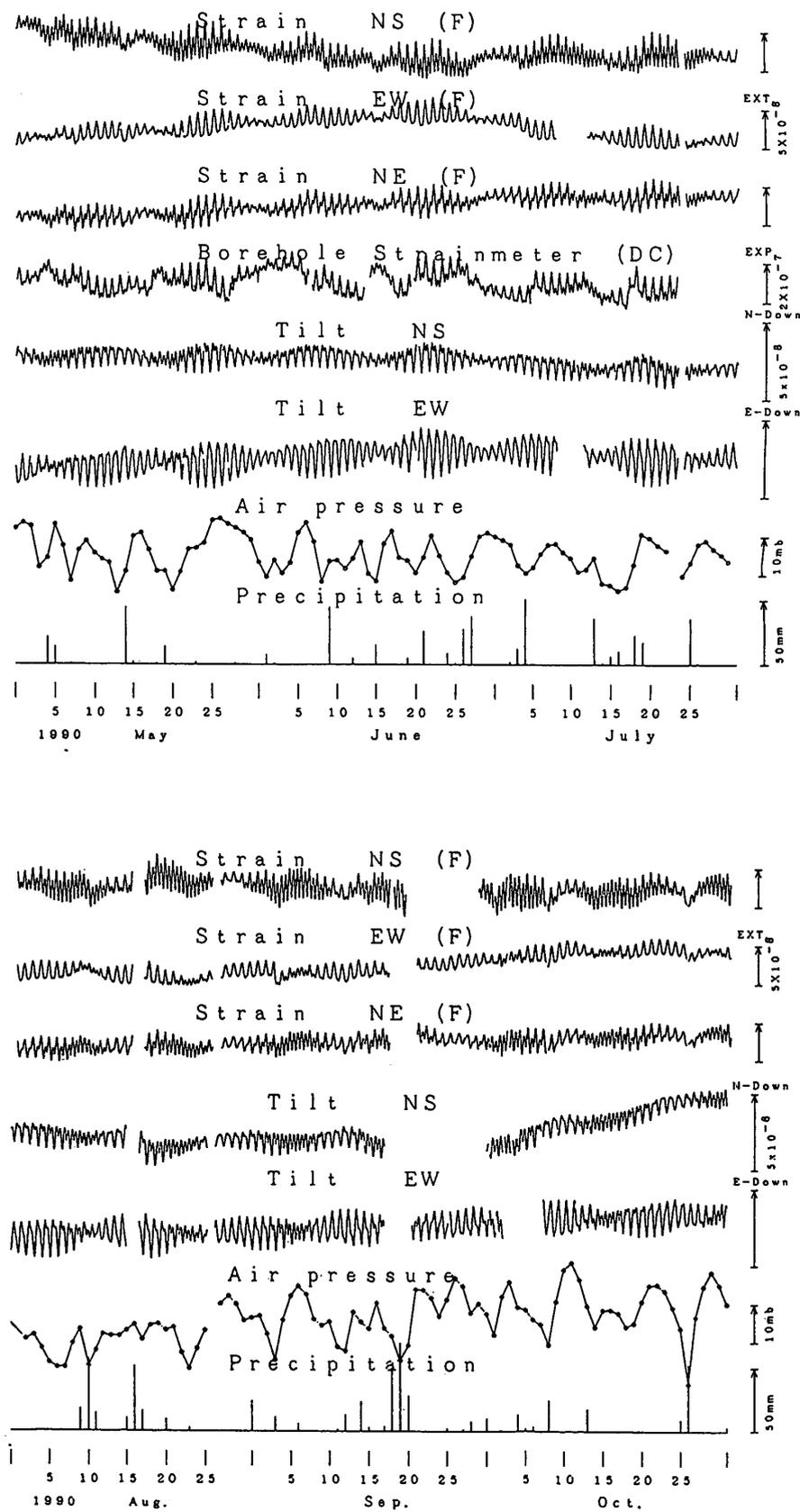
国立天文台水沢

National Astronomical Observatory, Mizusawa

国立天文台水沢観測センターの江刺地球潮汐観測施設において行っている地殻変動連続観測につき、1990年10月までに得られた結果を報告する。観測機器とその配置については既報¹⁾のとおりである。第1図には最近6カ月間の石英管伸縮計、水管傾斜計およびボアホール体積歪計の各成分の毎30分値であり、落雷などによる欠測を含むものとともに異常は認められない。なおボアホール歪計は8月初めに故障し、10月末から観測を再開したが、最近3カ月の変動図は省略した。第2図以下のデータはすべて日平均値であり、第2図と第3図は最近の1年間、第4図は施設開設以来の変動を示している。この観測施設は従来から他の観測所に較べて経年変動が小さいことが知られているが、ひきつづいていずれの成分についても静穏に経過した。

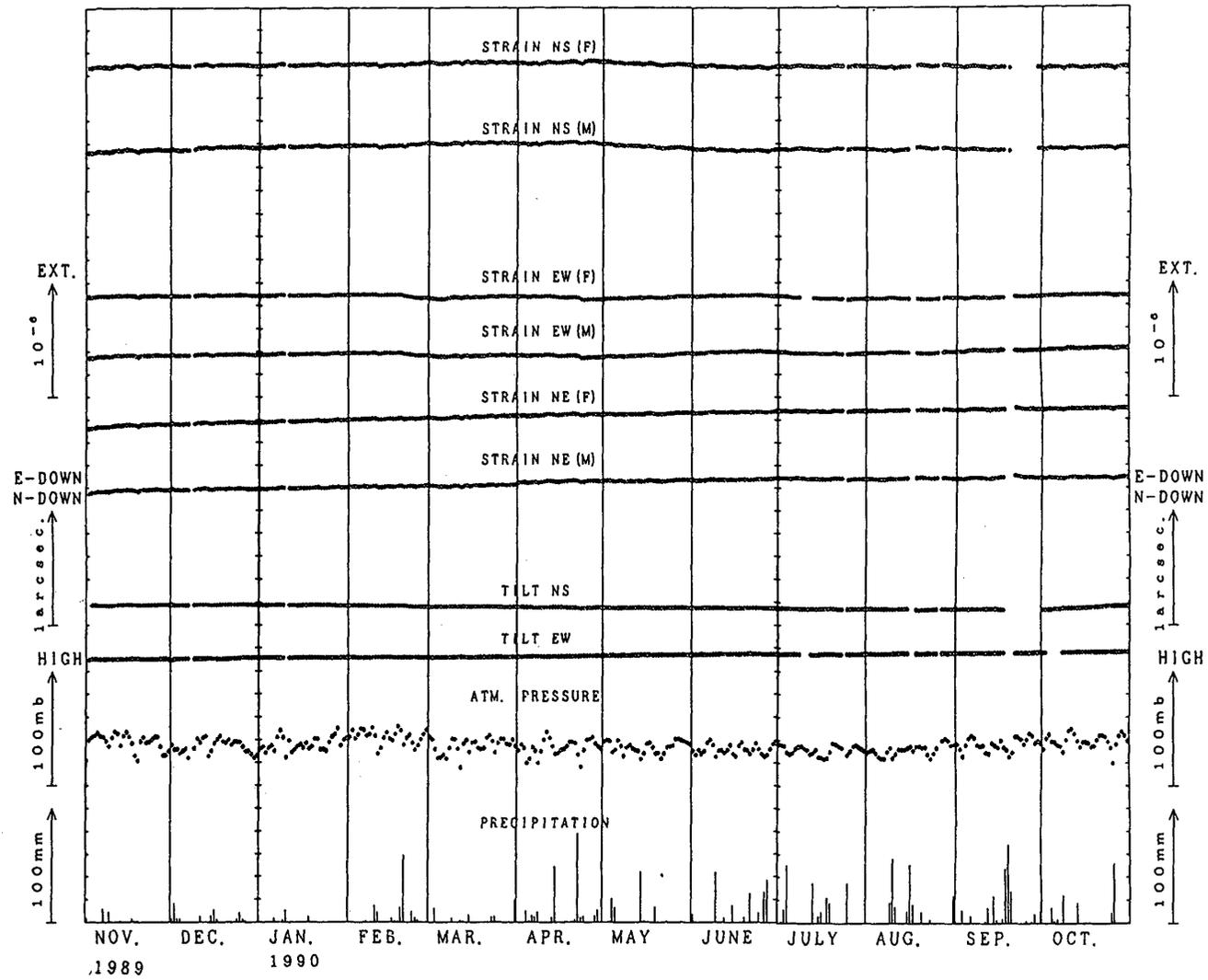
参 考 文 献

- 1) 国立天文台水沢：江刺地球潮汐観測施設における地殻変動連続観測，連絡会報，42(1989)，66-69.



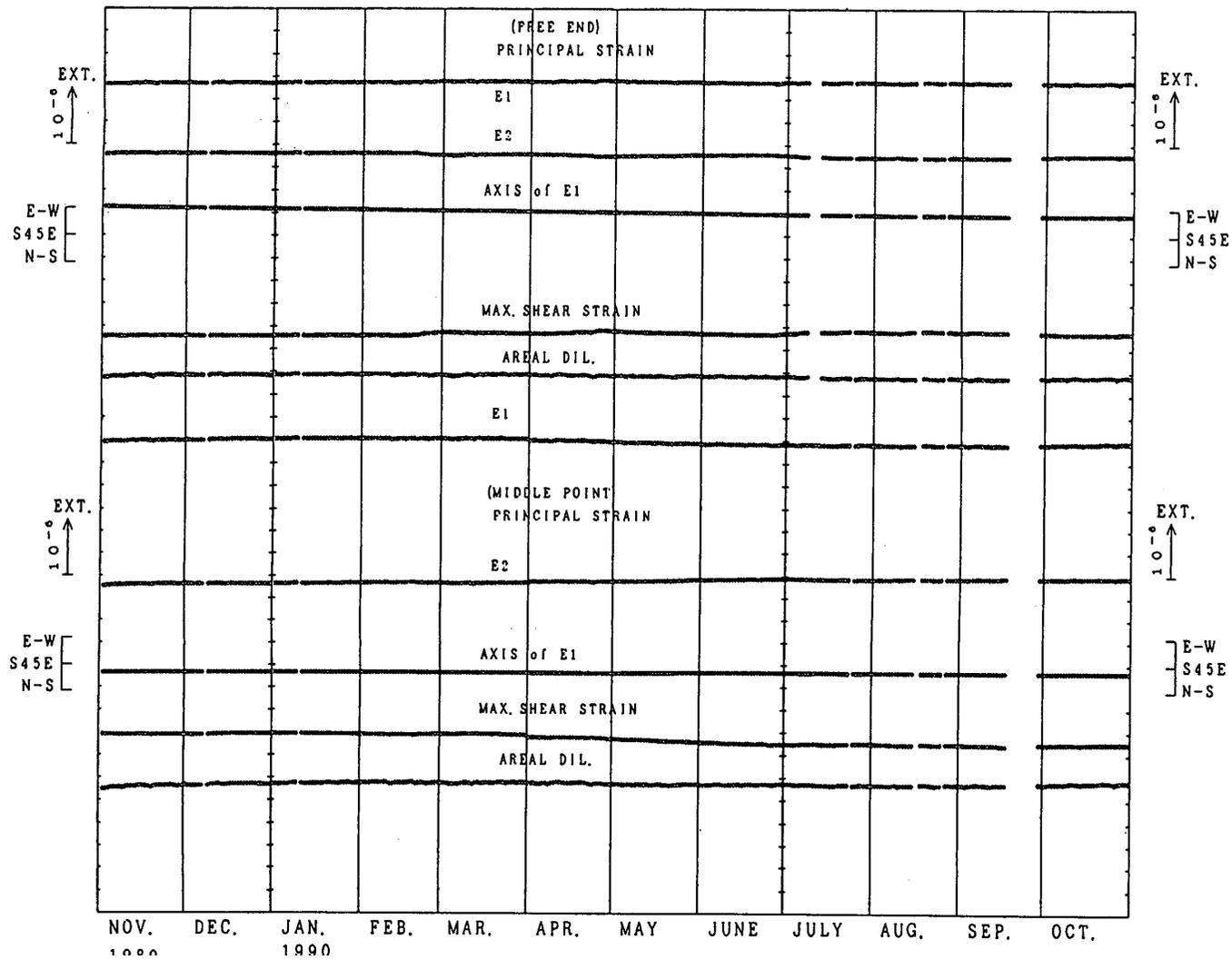
第1図 江刺地球潮汐観測施設における地盤の歪及び傾斜の毎30分値

Fig. 1 Every 30 minutes data of tilt and strain with water-tube tiltmeters, quartz-tube extensometers and a borehole strainmeter during May – October, 1990.



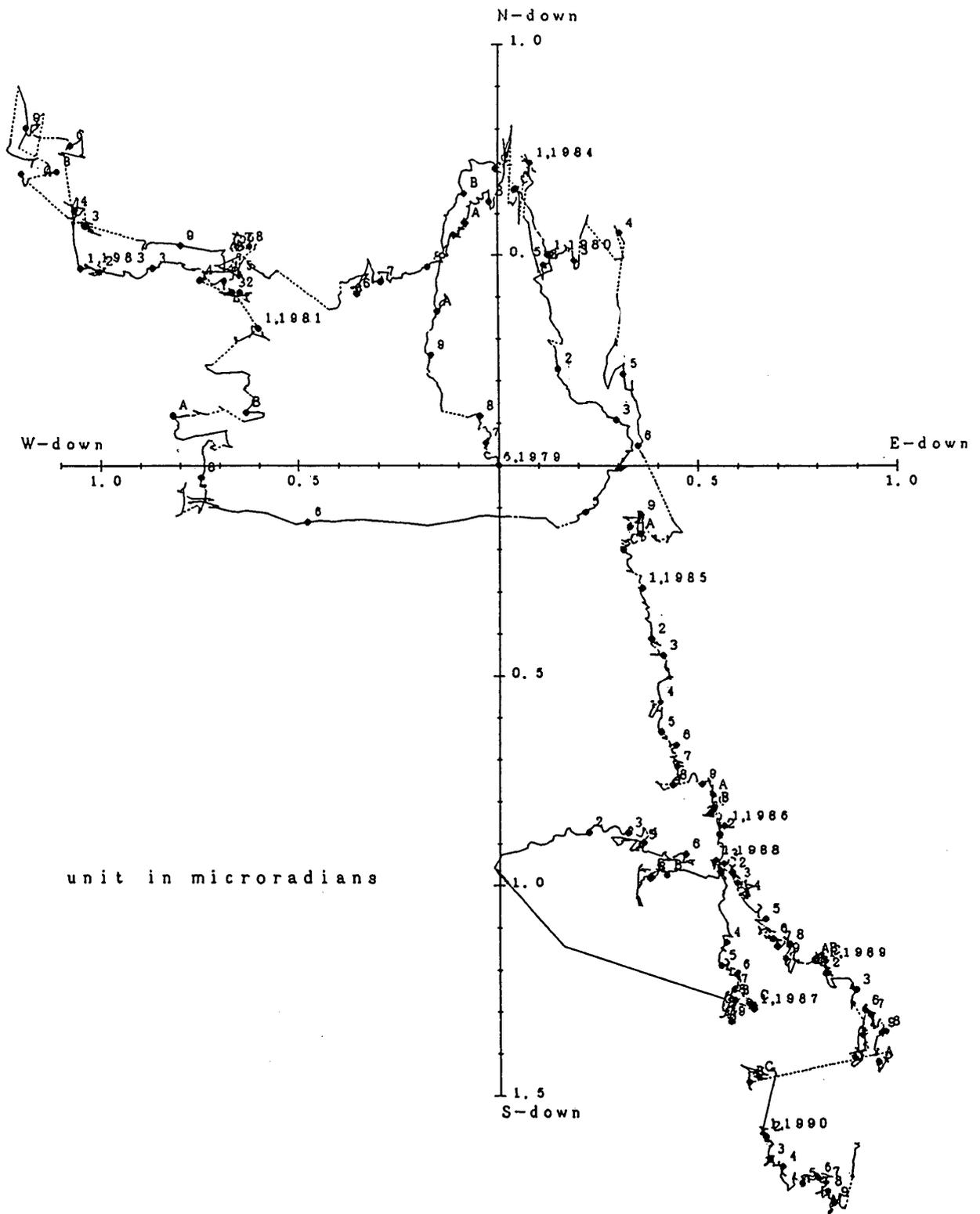
第2図 最近1年間の傾斜および歪変化の日平均値

Fig. 2 Daily means of observed ground tilt and strain with water-tube tiltmeters and quartz-tube extensometers during November 1989 - October 1990.



第3図 主歪，最大剪断歪及び面積歪

Fig. 3 Daily means of derived principal strain, maximum shear strain and areal dilatation during November 1989 – October 1990.



第 4 図 地盤傾斜の経年変化

Fig. 4 Secular change of tilt since the first observation in 1979.